



地域日本語支援ニュース こだま 第 249 号

2014.2.13



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

====目次=====

1■ともに生きる■

～インタビュー～ いつか 日本と、ベトナムで
グエン ビエット タン

2■AJALT 公開講座のおしらせ■

—日本語の文字の力を再考する—「漢字の姿は、心の姿」
講師 宇佐美志都氏 2月28日(金) 於:東京ウィメンズプラザ

=====

1■ともに生きる■

～インタビュー～
いつか 日本と、ベトナムで

グエン ビエット タン

神奈川県逗子市の美容院“De La Mair デラメア”のスタッフブログに、「NGUYEN VIET THANH ベトナム人 男性」の紹介があります。15歳でご家族とともに来日し、国際救援センターで10代の仲間と日本語を学んでいたグエン ビエット タンさん。十年あまりを経て、当時のクラスメートや講師と集まる機会がありました。日本の地域社会で仕事をするタンさんにお話を聞きました。☆☆☆☆☆☆☆☆

——今の道に進もうと決めたのは、いつですか。

定時制高校に通って、これから日本で生活していくことを考えたとき、何か

資格があった方がいいんじゃないかと思いました。

たまたま、アルバイトの仲間に美容師さんがいて話を聞くうちに、自分も興味があって学校に行くことに決めました。

ことばの不安はあったけど、困ったときはどうしたらいいか、だれに相談したらいいか、解決する方法を自分でよく考えて、あとはもう、勇気を出して専門学校に入りました。

——国家試験は実技と、法律や制度・物理や化学などの筆記があるんですね。

はい、専門の言葉はむずかしかった、とにかく覚えるしかなくて、勉強して覚えしました。試験に合格してから、今の店に入るときも、自分は日本人じゃないので心配しました。面接では、自分ができることを精いっぱい話しました。

今、アシスタントとして3年目です。わからないことは何でも先輩や仲間に教えてもらっています。ときどき、いっしょに飲みに行きます（笑）。

——美容院では技術のほかに、お客さんとの会話も大切になりますね。

はい、年配のお客さん、若いお客さん、子ども……、お客さんに合わせます。まだときどき日本語の意味がわからないこともあります。毎日、テレビや雑誌でいろいろ今の話題を知るようにしています。みなさん私がベトナムから来たこと知っていて、ベトナムの町や自然、料理やファッションについて話すこともあります。

でも話すだけでなく、静かなほうが好きな人もいますので、お客さんをよく見るように気をつけます。

——これから、どうしていきたいですか。

スタイリストになって、これは大きいゆめかもしれないけど、いつか自分の店を持ちたい、日本と、ベトナムと、両方で仕事ができればいいな、と考えています。

（聞き手：公益社団法人国際日本語普及協会 水野晴美）
